

鏡石町の将来を考える

広域行政に関する町民懇談会に302人出席

市町村合併特例法の適用期限が平成17年3月末に迫り、現在市町村合併がテレビや新聞等で多く取り上げられています。町では、この市町村合併について理解を深め、鏡石町の将来をみんなで考える機会として、6月16日から7月3日までの13日間、全行政区において、広域行政に関する町民懇談会を開催しました。今月号では、懇談会の概要を要約して報告します。



配布資料に目を通し説明を聞く参加者

懇談会は、町と行政区が主催し、久来石区からスタートしました。久来石区では、初日とあって43人の区民のみなさんが出席。鏡石町の行財政の現状や広域行政についての取り組み状況、そして市町村合併のメリット・デメリット等について説明を受けた後、意見交換を行いました。意見交換では、「今回の懇談会は

主な意見・質疑		
項目	件数	主な質疑・意見等
行財政について	25	市町村は今後交付税をどの程度減されるのか。市町村合併により財政はどのようになるのか。単独の場合、財源確保は可能か。
合併の方向性について	25	市町村合併に対する町の方針はどうか。市町村合併には、住民の意向を十分に取り入れてほしい。市町村合併賛成の意見、市町村合併反対の意見が出された。
他市町村について	19	市町村合併に対する周囲市町村の状況はどのようになっているか。合併するとすればこの市町村と行うのか。合併しないまちづくりを行っている市町村の事情。取組状況はどうか。
広域行政について	8	市町村合併により、現在広域行政（事務組合等）で行われている事業はどのようになるのか。水資源確保の見通しはどうか。
会議・懇談会について	7	今回の懇談会は市町村合併を前提としたものなのか。市町村合併に対する話し合いを今後も持つのか。
人口について	7	人口増加は図れるのか。市町村合併する場合、人口規模はあるのか。
住民投票について	6	市町村合併を問う住民投票は行うのか。
メリット・デメリットについて	6	市町村合併のメリット・デメリットを説明してほしい。
施設整備について	5	市町村合併をするしないによる公共施設等の整備は違ってくるのか。
公共料金等について	5	市町村合併により公共料金、税額は変わるのか。
結論期限について	5	市町村合併に対する町としての結論は、いつまでに決定するのか。
アンケート結果について	4	行政区ごとに分けた市町村合併賛成および反対者の数、割合はどの程度か。
広域行政研究会	2	広域行政研究会の内容を知りたい。
その他	7	他の行政区の反応はどうか。
計	131	



質問に答える木賊町長

市町村合併
方向性は年内に

今回の懇談会を通して、多くのみなさんから「合併するか・しないのか」の判断時期や、合併するとした場合の「梓組み」等具体的な質問が多く寄せられました。この質問に町長からこれ

までの町づくりは合併を前提としたものではなく、合併により現在よりも良い方向に向かうのであればと思うが、合併は地域住民の総意でという考えに変わりはない」と答えました。

また、判断の時期については、市町村合併特例法の期限にこだわるわけではないが、ある程度の方向付けは、年内に」との見解を示しました。「市町村合併」21世紀の新しいまちづくりの手法としてどう取り組むべきか。みなさんのご意見を役場総務課（622111）までお寄せください。

できていますか 災害時の心構え

十分な対策を

毎年日本各地で、大地震、集中豪雨等が発生しています。今年も5月に宮城県沖を震源とする地震が発生し、鏡石町でも震度4を観測しました。7月には九州地方の土石流災害、宮城県北部では大規模な地震が連続して発生し、多くの人命と財産が失われています。いざというときに落ち着いて行動できるように正しい心構えを身に付けましょう。

自分自身を守るには

災害は、いつ何時、自分の身にふりかかるかわかりません。例えば地震が発生した場合、左表のような被害が予想

され、場合によっては命を失うことにもなりかねません。災害時、被害を最小限にするためには、次のことに注意しましょう。

地震のときの対応
家の中にいるとき
すばやくガス器具やストーブなどの火を消す。
机などの下に身をかくし、座布団などで落下物から頭部を守る。
周囲の状況を確認、あわてて外に飛び出さない。
市街地にいるとき
窓ガラスや看板などの落下物に注意して安全なところへ避難する。
ブロック塀や倒れそうなも

の、垂れ下がった電線には近づかない。
車を運転しているとき
急ブレーキを避け、序々にスピードを落としながら道路の左側に寄せて止まる。
カーラジオで情報をよく聞き、規制に従って行動する。
台風のときの対応
テレビ、ラジオで台風情報や防災上の注意事項を聞くようにする。
外出や旅行は、できるだけ控えるようにする。
雨がけ付近に家がある方は、大雨が続くと地盤がゆるんでがけ崩れのおそれがあるので注意する。
河川の近くの人は、川の水

ち着いて行動する。
2次災害の危険がある場所には決して近づかない。
家族で十分な話し合いを
これからは台風時期となり、局地的に大雨や暴風が起こりやすくなります。
普段から災害について家族で十分話し合い、避難場所、連絡方法など確認しておきましょう。また日頃から非常持ち出し品（救急セット、食料品、飲料水、ラジオ、懐中電灯など）を用意しておき、常に使える状態にしておきましょう。

地震の揺れと想定される被害（気象庁資料より）

震度階級	被害想定
震度0	人は揺れを感じない。
震度1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
震度2	屋内にいる人が揺れを感じる。吊り下がっている電灯などがわずかに揺れる。
震度3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じる。棚の食器などがたがた音を立てることがある。
震度4	眠っている人のほとんどが目覚まし、部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。
震度5（弱）	家具の移動や、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることがある。
震度5（強）	タンスなど重い家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度6（弱）	立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスは壊れ、ドアが開かなくなる。
震度6（強）	立ってられず、はわないと動くことはできない。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛ぶ。
震度7	自分の意思で行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。

避難するときの注意
隣近所の人たちへ声を掛け合って、集団で避難する。
徒歩で避難し、自動車は使わない。
避難する前にガスの元栓は締め、電気器具のスイッチ、電気のブレーカーを切る。
ラジオ、テレビなどの災害情報をよく聞き、あわてず落



定期的に点検を

問い合わせ先
町総務課 62

2111